

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	193人	社会	193人	数学	193人
	理科	193人	英語	193人		

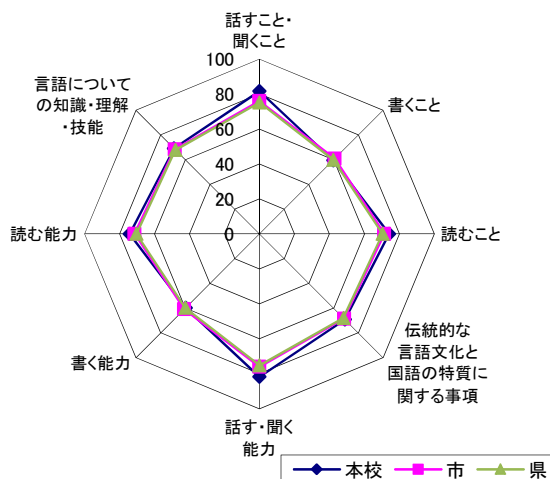
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.7	76.0	75.2
	書くこと	59.7	60.9	59.9
	読むこと	74.2	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.2	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	81.7	76.0	75.2
	書く能力	59.7	60.9	59.9
	読む能力	74.2	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	69.2	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

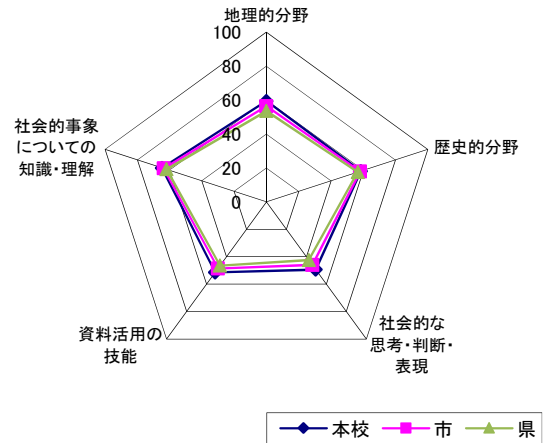
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことでは、正答率が81.7%(県との差+6.5ポイント)と満足できる結果であった。特に、「分かりやすく伝えるために話の構成を考える問題」の正答率は85.5%(県との差+9.2ポイント)で、県の正答率を大きく上回った。	・単元末に実施している聞き取りテストや、全校で取り組んでいる1分間スピーチが成果を上げている。また、教科を問わずグループでの話し合い活動や発表に取り組んできた効果が表れている。継続して実施していく。
書くこと	○書くことの正答率は59.7%(県との差-0.2ポイント)で、概ね満足できる結果であった。 ●「活動報告書の内容に合う資料を選ぶ問題」の正答率は37.3%(県との差-5.5ポイント)と低く、資料を活用した記述が課題である。	・短作文テストを実施したり、国語の授業においても書かせる機会を増やしてきたりしたことが、成果を上げてきているので、継続していく。 ・相手に分かりやすく、説得力のある意見にするには、グラフや資料を活用することが有効である。資料やグラフを入れた文章を書かせる機会を増やしていく。
読むこと	○読むことの正答率は74.2%(県との差+3.8ポイント)で、十分満足できる結果であった。「文章の構成や展開について自分の考えを持つ問題」の正答率は84.5%(県と差+6.6ポイント)と高かった。 ●「物語の展開や表現について自分の考えを持つ問題」の正答率が47.2%(県との差-3.8ポイント)と低い。	・文学的文章や詩の読解の授業では、内容の理解にとどまらず、自分の考えを持ち、伝え合うことで、ものの見方を広げる授業を展開してきた。成果が表れるまで継続して取り組んでいく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○言葉の知識に関する問題の正答率は69.2%(県との差+1.2ポイント)で十分身に付いている。 ●「語句の文脈上の意味について辞書を使って調べる問題」82.9%(県との差-3.2ポイント)、「漢字の成り立ちの問題」57.5%(県との差-3.1ポイント)は正答率が低く、課題である。	・授業のはじめ5分を活用し、継続して漢字の読み書きの指導をしてきた成果が表れている。 ・実際の生活の中でも辞書を利用する機会は減っているので、国語の授業で利用させていく。 ・言葉の知識については既習事項を確認する機会を設け、知識の定着を図る。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	59.4	56.4	53.5
	歴史的分野	58.5	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	49.4	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	51.4	48.6	46.5
	社会的な事象についての知識・理解	64.7	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

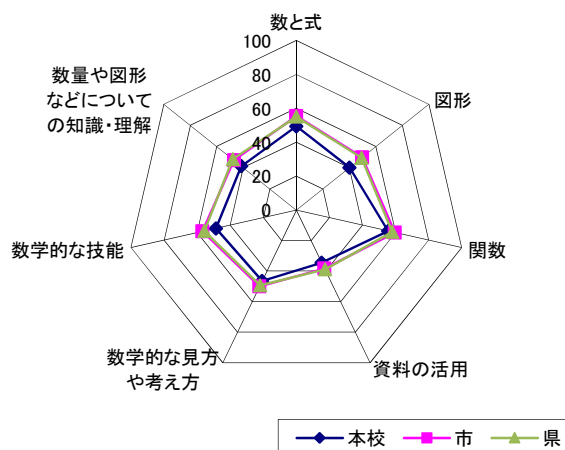
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○県の平均を上回っている小問が全14問中13問あった。その内5ポイント以上、上回っていた小問が8問あり、内2問は10ポイント以上、上回っていた。</p> <p>○資料からアメリカの工業の変化を考察する問題と資料からアメリカの工業の変化が進んだ理由を考察する問題は県の平均を8ポイント上回っている。</p> <p>●アマゾン川を答える問題だけが、県の平均を1.9ポイント下回っていた。</p>	<p>・三観点ともに県・市の平均を上回っている。特に社会的な思考・判断・表現は約7ポイント上回っている。現在、若松原地域学校園の取組として、小学校と連携し『資料の読み取りを通して、表現力を高める指導の工夫』を行っている。次の二つの実践により、成果が表れてきているので、今後も継続していく。</p> <p>①資料をもとに考えたことや分かったことをまとめる学習を取り入れる。</p> <p>②グループ活動を取り入れることにより、自分の考えを表現したり、友達と考えを比較したり、関連付けたりしながら考えさせる機会を多く設定する。</p>
歴史的分野	<p>○県の平均を上回っている小問が全15問中10問あった。その内5ポイント以上、上回っていた小問が5問あり、内1問は10ポイント以上、上回っていた。</p> <p>●県の平均を下回った小問が5問あったが、その内4問(年代の表し方、天平文化が栄えたときの天皇、鎌倉幕府が置かれた場所、室町時代におこった戦乱の名称)が、5ポイント以上、下回っていた。</p>	<p>・時代区分の表し方、天平文化が栄えたときの天皇、鎌倉幕府が置かれた場所、室町時代におこった戦乱の名称が大きく落ち込んでいた。特に時代名はわかってはいるものの時代区分で広くとらえることができていなかったり、鎌倉幕府の名称はわかってはいても、その位置を日本地図より選択できていなかったりしている。時代区分の確認や歴史的事象に関係する場所を地図上で確認することを、授業で意識的に行う。</p>

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	49.4	55.4	55.0
	図形	40.1	49.8	49.2
	関数	55.5	59.6	58.0
	資料の活用	34.4	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	46.5	50.0	49.3
	数学的な技能	48.6	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	41.5	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

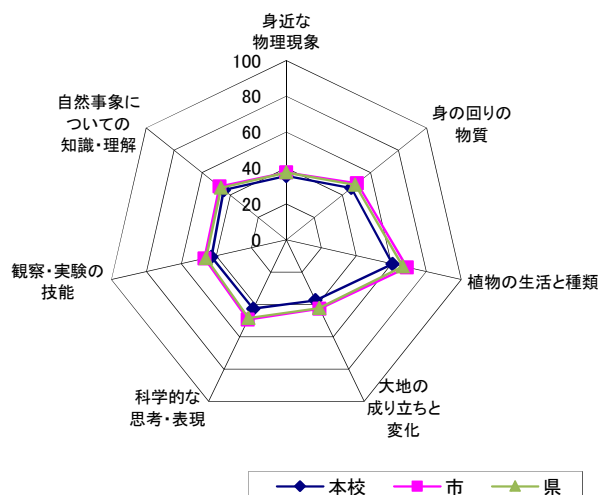
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○与えられた数の中から自然数を選ぶ問題の正答率は、市と比べ7.0ポイント上回っている。 ●数と式の問題では、本校の正答率が、県と比べ5.6ポイント、市と比べ6.0ポイント下回っている。特に一次式の計算の問題の正答率が低い。	・一次式の計算や一次方程式を解く問題は、解き方を確認し反復練習をすることにより、定着を図る。 ・一次方程式をつくる問題は、図などを用いて場面をよく把握させてから立式させる。
図形	○おうぎ形の面積を求める問題では、市との正答率の差は小さい。 ●図形の問題では、本校の正答率が、県と比べ9.1ポイント、市と比べ9.7ポイント下回っている。特にねじれの位置にある辺を答える問題の正答率が低い。	・図形の面積や体積の求め方を定着させるために、公式を繰り返し確認したり、模型を見ながら確認したりする。 ・得点の低い生徒の無回答率が高いので、生徒の実態を把握し、それぞれの生徒への支援を行う。
関数	○グラフを読み取る問題の正答率は、県と比べ4.9ポイント上回っている。 ●関数の問題では、本校の正答率が、県と比べ2.5ポイント、市と比べ4.1ポイント下回っている。特に2つの数量の関係を式に表す問題の正答率が低い。	・2つの数量の関係性を見るために、表・式・グラフからその特徴をよく確認させていく。 ・記述式の問題の無回答率が高いので、自分の言葉で書かせたり、説明させたりする練習をしていく。
資料の活用	○ヒストグラムの特徴を比較して説明する問題の正答率は、市と比べ0.5ポイント上回っている。 ●資料の活用の問題では、本校の正答率が、県と比べ4.5ポイント、市と比べ3.9ポイント下回っている。特に相対度数を求める問題の正答率が低い。	・表やグラフから読み取れることを自分の言葉で書かせたり、説明させたりする。 ・得点の低い生徒の無回答率が高いので、重要語句を繰り返し確認し、それぞれの生徒への支援を行う。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	35.6	37.6	37.5
	身の回りの物質	46.4	50.5	49.1
	植物の生活と種類	60.7	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	37.4	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	42.6	49.4	48.5
	観察・実験の技能	42.8	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	44.6	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

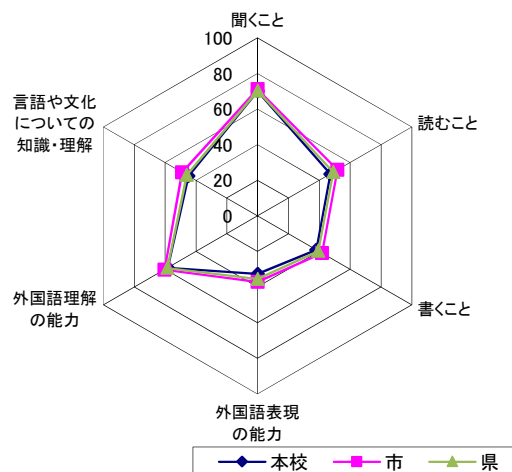
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○ 図を基に、力の性質や大きさを考える問題では、県の平均を上回っている。 ● 密度や質量パーセント濃度を計算する問題で、大きく県の平均を下回っている。	・図から実際にどのくらいの力が加わっているのかを考えて数値を出せると良い。そのために、実験などの作業の中から得た数値を利用して計算を行い、物理現象と数値がつながるようなワークシートを工夫する。
身の回りの物質	○ 物質の状態変化がどのように起こるかを考える問題は、県の平均を上回っている。 ● 表をもとに、分析し、解答する問題で県の平均を下回っている。	・実験結果を表にまとめ、その結果からどのようなことが言えるかを考察する時間を授業の中で多く取り入れることで、実際に起こりうることと、結果がどのようにつながるかを考えさせる工夫をする。
植物の生活と種類	○ 図を基に、植物のなかまの名称を答える問題では、県の平均に近い結果になっている。 ● 光合成に日光が必要かを調べるために、実験結果の何を比較すればよいかを答える問題では、県の平均より9ポイント下回っている。	・単に実験を行うだけでなく、実験結果から考察する場面を多く設定したり、目的意識をきちんと持たせて実験を行わせたりするなど、実験の作業だけに終始しないようワークシートを工夫する。
大地の成り立ちと変化	○ 示準化石となるためには、どのような条件が必要かを答える問題では、県の平均を2.4ポイント上回っている。 ● 実験から、花崗岩のでき方を推測する問題では、県の平均を8.9ポイント下回っている。	・モデル実験の結果をもとに花崗岩のでき方を推測するには、単なる知識の習得だけでなく、思考力を高めることが必要である。授業の中で、根拠をもとに予想を立てさせたり、実験結果をもとに考察させたり、考えたり、意見を出し合ったりする場面を多く持つことで思考力を身に付けさせる。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	70.1	71.1	70.2
	読むこと	47.2	51.8	49.1
	書くこと	38.1	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	32.6	37.1	35.5
	外国語理解の能力	58.3	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	45.0	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○聞くことの領域の県平均と本校平均の差が、前年度は-0.6ポイントであったが、今年度は-0.1ポイントとなり、正答率が県平均に近づいた。</p> <p>●英文を聞いて、本を置く場所を聞き取る問題の正答率が低い。前置詞の使い方とその意味を正確に理解していない。</p>	<p>○単元ごとのリスニングテストを継続していく。</p> <p>●教科書内の聞き取りの問題に取り組む時に、その英文を再確認する。</p> <p>●ALTとの授業で、英語での説明や会話の場面を多く設定する。また、授業中の英語での発表についてプラス1の質問をすることを心がける。</p>
読むこと	<p>○読むことの領域の県平均と本校の平均の差が、前年度は-6.7ポイントであったが、今年度は-1.9ポイントとなり、正答率が大幅に平均に近づいた。</p> <p>●新聞の記事を読み、適切なタイトルを付ける問題の正答率が低い。長文の内容を明確に理解する力が弱い。</p>	<p>○教科書本文を読む時に、大まかでもよいから自分の力で読みこなすようにする。</p> <p>●本文の内容に関する質問をしたり、T-Fテストをする活動を通して、英文を読むことに慣れさせる。</p>
書くこと	<p>○書くことの領域の県平均と本校の平均の差が、前年度は-5.5ポイントであったが、今年度は-1.3ポイントとなり、正答率が大幅に平均に近づいた。</p> <p>○会話の応答文についての問題の正答率が高い。会話の中での慣用表現が身に付いている。</p> <p>●疑問詞を含んだ疑問文の正しい語順の理解に関する正答率が低い。長い質問文の構造を理解する力が弱い。</p>	<p>○予習ノートづくりを習慣化させるなど、家庭学習で英文を書く習慣をつけさせる。</p> <p>●授業中、ペアでの会話や聞き取りの内容をノートに書く活動を取り入れる。</p> <p>●例文を提示することで、下位の生徒も英作文に取り組みやすくする。</p>

宇都宮市立若松原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学習について】

○学習についての質問の中で、肯定的割合が宇都宮市や栃木県に比べて高くなっているのが「自分は勉強が良くできる方だと思う」「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」などである。これらの結果から、教科の学習や話し合い活動などを通して自信を持つことができていることがわかる。今後も生徒たちが「やってよかった」「がんばってよかった」と感じることができる、達成感が得られる活動を計画していく。また、その自信がより高い目標に挑戦しようとする姿勢につながるよう助言していく。

○「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の数値も高い。授業者による授業の展開の中にこれらのポイントを確実に入れているためである。このことでその授業のポイントを明確にできるので、理解につながり、学習成績の向上に良い影響を与えていると考える。今後も継続指導していく。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の質問に対する肯定的数値が低い。自主的に学習に取り組む姿勢や探究心が不足していることが原因と考えられる。今後は、やらされる学習でなく、自主的に学びたいと思える意欲を育むための指導をしていく。

【生活について】

○「家の人と学校での出来事について話をしている」「家の人、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」は栃木県・宇都宮市よりも良い結果が出ている。また、「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人と学習について話をしている」の項目は、栃木県の結果よりも肯定割合が高い。このことから、親子関係は良好であり、親子でのコミュニケーションは十分に取れていると考えられる。

●「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時間に寝ている」「早寝、早起きを心がけている」の数値が低いことから、家庭での生活リズムが不規則であることがうかがえる。日々多忙な中学生であるが、翌日に疲れを残さないためにも、早寝・早起き・朝ご飯の習慣を身に付けさせるよう指導していく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
1分間スピーチ	帰りの会等で毎日一人ずつ「今月のテーマ」にそったスピーチを行う。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の項目に対する肯定意見の数値が栃木県・宇都宮市よりも高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自主的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。	チャレンジノート(地域学校園で利用している自主学習ノート)の活用	提出状況を確認しながら、その内容についての指導をする。